

2018年12月

## 秋田県高校野球のシステムと地域活性化

### ～金足農業高校を事例として～

経営学部 経営学科 梅村ゼミ  
B5R11036 利部華椰

#### 【卒業論文概要】

今年の夏の甲子園では秋田県の金足農業高校が全国的に有名になり、県内にとどまらず県外をも盛り上げた。この“金農旋風”の裏側には秋田県の8年に渡るサポートが存在した。秋田県教育庁保健体育課が平成23年から「秋田県高校野球強化プロジェクト」を始動させた。平成22年までの県勢の夏の甲子園での成績は13年連続初戦敗退であった。平成21年に「スポーツ立県あきた」を宣言した中での13年連続初戦敗退という成績に、県民の関心も強い高校野球に対して強化事業の取り組みを何かしなくてはならないと佐竹秋田県知事が教育庁保健体育課に指示をした。そこで強化事業としてプロジェクト委員会が立ち上げられたことが背景となっている。そこで掲げられた目標は「5年間でベスト4」。甲子園優勝校の元監督、甲子園大会の審判、早稲田実業社会人野球チームのコーチ、メジャーリーグなどからもオファーがかかる投球動作解析者、日本オリンピック委員会で文部科学省等各委員、甲子園大会NHK解説者など様々な面から甲子園に関わる方々にアドバイザーとしてプロジェクトに協力して頂いた。平成23年1月から始まった「秋田県高校野球プロジェクト」。開始から8年目、吉田輝星投手率いる金農ナインが第100回全国高等学校野球選手権大会で数々の甲子園強豪校に勝利し、準優勝という成績を収めた。県立高校でメンバー全員が秋田県内出身であること、県予選から今大会まで選手交代ゼロであったこと、また侍ポーズや体を大きくそらせて歌う全力校歌などで日本中に『金足農業』の名を轟かせた。

この影響で県への経済波及効果は、来年夏までに約104億円にのぼるとの試算を日本銀行秋田支店が発表した。県内総生産の約0.3%に当たる金額で、金足農業の活躍が社会現象になったことを裏付けた。また、あきぎんリサーチ&コンサルティングが、8月中の全国紙やテレビの全国放送の報道量を広告料金に換算し、地域PR効果を約70億円とした試算をまとめている。

プロジェクトは今年で終わってしまうが、来年再来年と継続して結果を残していくこと、また、今年のこの効果を利用してさらに日本国内外にまで秋田をPRすることを課題として提示する。